

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	3893600027
法人名	株式会社 フォースコーポレーション
事業所名	グループホーム ゆうなぎ
所在地	喜多郡内子町城廻 6 1 3 番地 1 (電話) 0893-44-5963
管理者	緒方 久美子
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 20 年 8 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 17 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	16 人
常勤	13 人
非常勤	3 人
常勤換算	15.2 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷金	有()円	○ 無	
保証金の有無	有()円	有りの場合	
(入居一時金含む)	○ 無	償却の有無	
食材料費	朝食 200 円	昼食	400 円
	夕食 400 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 15 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1	6 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	名	要支援 2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 77 歳	最高 96 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町を見渡すことができる高台にあるホームで、元中学生の寮であった建物を改造しており、懐かしく暖かい雰囲気がある。広くて長い廊下には大きな窓が並び、明るく気持ちがよく、移動することで機能回復やリハビリテーションにも役立っている。福祉に対するしっかりとした理念と豊かな経験をもった管理者のもと、職員全員が気持ちを一つにしてケアに取り組んでおり、安心して過ごせる環境を整えている。24時間対応してもらえる医師と連携をとりながら健康管理を提供している。利用者は落ち着いて自分の生活をゆったりと過ごしている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

評価結果に対して、職員の提案を促しながら改善計画を立てて積極的に改善に取り組んでいる。地域密着型を意識した理念の再考について、全員で検討して新たな理念を作っているが、地域との関わりを明確にするまでには至っていない。認知症についての講演会を開催するなど行政とのネットワークづくりに取り組んでいる。意見箱の設置場所を工夫したり、金銭出納帳に確認印をもらうなど、家族との信頼関係づくりにも努力している。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

職員一人ひとりが自己評価に取り組むことで、少しずつ気づきがあることを意識している。また、評価結果に対して職員の提案を促しながら改善計画を立てて積極的に改善に取り組んでいる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

行政、地域(区長、民生委員、保育園長など)、家族など様々な立場の委員の参加を得て意見交換できるよう工夫している。年間を通してスケジュールを立て、委員それぞれが提案した議題を担当し、発表するようにしている。自己及び外部評価についてもその都度話し合っている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

家族の来訪時にはその都度生活ぶりを伝えている。月1回は健康状態や金銭報告などについて、便りを付けて報告している。来訪時の声かけを積極的に行ったり、運営推進会議、家族会なども行って意見を聞いているが、要望はほとんどないのが実情である。しかし、要望に応じていく仕組みは構築している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

自治会に加入し情報交換を行い、祭りや運動会などの行事に参加している。ホーム主催の祭りを開催し、地域の方に来てもらうきっかけづくりにも取り組んでいる。隣接している保育所との交流も盛んであり、また近所の方が野菜などを持参して様子を見に来てくれることもある。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 南 棟

記入者(管理者)

氏 名 緒方 久美子

評価完了日 平成 20 年 6 月 12 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域の中で安心して暮らしていけるよう事業所独自の理念を作っている。	※	ホーム内の生活だけでなく、この地域で生活してきた利用者の生活をそのまま自然に継続していけるようなケアを目指し、目標として理念に盛り込むことを期待する
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝礼時に復唱し、ミーティング・職員会議等で話し合っている。	※	職員に時々アンケートをとり、理念の見直しを検討している。
			(外部評価) 利用者に筆で書いてもらった理念を、誰もが見やすいところに掲示している。毎朝、朝礼時には理念を唱和し、実践に活かしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時には家族に理念を説明し、事業所が取り組んでいることを伝えている。玄関先、施設内各棟の入り口トイレ等の目につくところに掲示している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の方と挨拶をしたり、施設の周りは散歩コースや保育所への通園コースとなっており、あいさつに努めている。	※	今まで以上に地域の方にいつでも立ち寄っていただけるよう取り組んでいきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会に参加し、地域の行事(運動会、お祭り、お神楽、等)や保育所(お誕生会、運動会、お祭り、等)生き生きサロンとの交流を行っている。 (外部評価) 自治会に加入して情報交換を行い、祭りや運動会などの行事に参加している。ホーム祭りを開催して地域の方に来てもらうきっかけづくりにも努めている。隣接の保育所との交流も盛んであり、また近所の方が野菜などを持参して様子をうかがいに立ち寄ってくれることもある。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方に呼びかけ、グループホーム連絡会主催の認知症の講演会を開いた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全職員で行い、問題点を再確認し具体的な改善に取り組んでいる。外部評価の結果を各棟に掲示し改善に向けた取り組みを行っている。 (外部評価) 職員一人ひとりが自己評価に取り組むことで、少しずつ気づきがあることを意識している。また、評価結果に対して職員の提案を促しながら改善計画を立て、積極的に改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に一回推進会議を行い、施設の状況を説明し、話し合ったことを職員に伝えさーびすの向上に生かしている。 (外部評価) 行政、地域（区長、民生委員、保育園長など）、家族など様々な立場のメンバーの参加を得て意見交換できるよう工夫している。年間を通してスケジュールを立て、委員それぞれが提案した議題を担当し、発表するようにしている。自己及び外部評価についてもその都度話し合っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月1回のグループホーム連絡会に市町村担当に参加してもらい各事業所等の報告を聞く機会を設けている。 (外部評価) 運営推進会議をきっかけに認知症講演会を開催し、《地域で安心して暮らせる・支えあうまちづくり、ネットワークづくりのために》というテーマを投げかけ、地域の福祉力向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、勉強したことを職員会議で報告し、資料等は各棟に配布して共有している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、朝夕の申し送り時職員会議、ミーティング等で話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用契約書は読み合わせを行い、疑問な点や、緊急時の対応については、利用者・家族に分かるように十分説明して理解を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見・不満・苦情等については、苦情報告書を作り職員全員で検討し、出来る範囲においては日常の業務に反映している。	※	努力はしているが、今後も利用者の意見を聞きながら思いに答えていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月1回お便りを発行し、健康状態を伝えている。金銭管理においても出納帳へ確認印を取っている。職員の異動については年に4回の通信に掲載して伝えている。緊急時はその都度電話連絡をしている。 (外部評価) 家族の来訪時にはその都度生活ぶりを伝えている。月1回、健康状態や金銭報告について便りを付けて報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を年2回実施し意見・要望を聞いている。面会に来られた時には、気軽に話ができる様に、雰囲気作りをしている。出された意見や要望については職員で話し合い、生かしている。 (外部評価) 来訪時の声かけを積極的に行ったり、運営推進会議や家族会なども開いて意見を聞いているが、要望はほとんどないのが実情である。しかし、要望に応じていく仕組みは構築している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 利用者や家族と信頼関係を築くため極力移動は避けるようにしている。利用者への影響を考慮して、各棟の申し送りや交流を図り、馴染みの関係を作っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者はフリーになれる体制をとっており柔軟に動けるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者や家族と信頼関係を築くため極力移動は避けるようにしている。利用者への影響を考慮して、各棟の申し送りや交流を図り、馴染みの関係を作っている。 (外部評価) 利用者にとって馴染みの関係が大切なことを十分承知しており、運営者、事務職員、管理者が常時フリーの状態で職員をサポートしていく仕組みをつくるなど工夫をしており、職員の異動はほとんどない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の能力に応じた研修会等を選定し、受講してもらうようにしている。 (外部評価) 外部の研修会の情報は常に公開し、段階に応じて順次受講できる。月1回の職員会議やカンファレンス時を利用して内部研修会も開いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月1回町内のグループホーム連絡会を実施し、意見交換をしている。また、交流の運動会や講演会町の福祉大会への参加をし交流を図っている。 (外部評価) 地域包括支援センターを中心に町内の5か所のグループホームでネットワークを作り、情報交換や運動会などの行事を通してサービス向上に役立てている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 忘年会、食事会を実施し親睦をはかっている。休憩時間や場所を確保している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、現場に入り日頃の職員の業務の様子を確認している。職員が楽しく働けるよう助言指導を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には、自宅面談に行き身体状況、生活状況、病歴、職歴等を細かく調査している。本人の思いを職員全員に報告し、入所後不安なく生活していただけるよう努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には、自宅面談に行き身体状況、生活状況、病歴、職歴等を細かく調査している。家族の思いを職員全員に報告し、入所後不安なく生活していただけるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の話を聞き必要としているサービスを受けられるように支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族が施設を見学してもらう機会を作っている。また、併設のデイサービスを利用してもらい馴染みの関係を作ってもらい入所する場合もある。 (外部評価) 今までの生活状況を大切に考えており、自宅を訪問したり家族から話を聞いている。ホームの雰囲気に慣れてもらえるよう、来訪してもらいお茶やおやつの時間を一緒に過ごしてもらっている。デイサービスを利用しながら馴染んでもらったうえで入居する方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として敬い、常に学んでいくことを忘れないという施設の行動目標に沿って、日常生活を共に過ごしている。 (外部評価) 職員ができない家事や裁縫などを教えてもらったり、落ち込んでいる時に励ましや助言があると素直に聞けるなど、職員は利用者が親のように暖かく見守ってくれているのを感じている。	※	今後も利用者の思いを共感しながら、共に学び支え合えるよう努める。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に利用者の状況を細かく伝え、来所時には出来るだけ楽しく会話ができるようにしている。食事と共にしてもらったり、散歩をしてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事の参加を呼びかけ利用者と一緒に過ごしてもらい、いつでも外出・外泊できるように努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所者によってはなじみの友達・知人の来訪者も多くあり、居室で過ごされる場合もある。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格や特徴を把握し、楽しく過ごせるような場面作りを行っている。職員もお茶や食事の時間を一緒に過ごし、話をしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 事例はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で一人ひとりの表情や態度からの本人の思いを知ろうと常に配慮している。 (外部評価) 職員は、常に利用者の立場になって気持ちに寄り添えるよう努めており、その時その時の気持ちをゆっくり聞き、納得できるまで見守っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前には自宅面談に行き、身体状況、生活状況、病歴、職歴等を細かく調査している。一度に聞けない場合もあるが、面会に来られた時にも状況を聞いている。	※	センター方式を利用した取組みを行うよう検討している。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の観察記録を取り日々の生活リズムの把握をし、楽しく安心した生活が送れるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 職員全員でカンファレンスを行い、一人一人に合った介護計画を作成している。家族にも、更新時、来所時に意見や思いを聞いて取り入れている。 (外部評価) 職員は担当の利用者について日々の様子から介護計画に対する評価を行って見直し原案をつくり、カンファレンスで全員の気づきを出し合って具体的な案をつくり、ケアマネジャーが家族の意見を取り入れて介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3か月毎に職員全員でカンファレンスを行い、一人一人に合った介護計画を作成している。家族にも、更新時、来所時に意見や思いを聞いて取り入れている。状態(入退院時)に応じては検討見直しを行っている。 (外部評価) 基本的には3か月ごとに見直しているが、カンファレンスごとに変化があるか確認して、必要であれば随時見直している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人一人の日々の介護計画を細かく作成し、職員間の情報共有を実施している。それをもとに、介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の要望に応じて、通院、リハビリ、外出を行い、支援している。 (外部評価) 自由にデイサービスに参加している。リハビリテーションや通院の支援、買い物や外出も利用者の要望に添えるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地区や民生員の方に参加いただき、運営推進会議を行い、話を聞いてもらっている。警察・消防署と連携をして防災訓練等を行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) なし		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在は未実施	※	運営推進会議に参加することとなり、情報交換、協力を図っていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望を聞きながら、随時対応している。 (外部評価) かかりつけ医の受診については職員が同行し、記録を持参して日々の様子を伝えている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 利用者の症状に応じて、主治医以外の脳神経外科の受診をし、相談治療を受けるようにしている。	※	近くに認知症専門医がおられない。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医院の看護師に週1回来てもらい、利用者の健康管理や、状態変化に応じた支援を行うことにしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には本人の情報を医療機関に提供し、頻繁に見舞い、家族と情報交換を行い、早期退院支援に結び付けている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人・家族・医師と十分相談し、重度化や終末期に向けた方針の同意書もらっている。全職員に説明し共有している。 (外部評価) 重度化や終末期については看取りの指針を作成しており、本人・家族の同意を得て方針を共有しているが、現在は事例がなく具体的な取り組みはない。	※ ※	状態変化に応じて、本人・家族の気持ちを聞きながら支援につなげていきたい。 指針を共有しながら、家族の役割、医師・看護師の役割、職員の役割や勤務体制等について繰り返し話し合いを重ねておくことが求められる。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今のところ終末期をホームで迎えた利用者はいないが、本人の気持ちをご家族を交えて聞いている。利用者が安心して終末期を過ごせるように、医療機関と密に連携を図っていく必要がある。	※	終末期の支援について、細かく職員同士で話し合いを行う必要がある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の施設・病院に移動の際には情報を提供するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会議やカンファレンスにおいて、利用者のほこりやプライバシーを傷つけないような言葉かけや対応について再確認し、職員の意識向上に努めている。		
			(外部評価) 記録の保管や、生活の中での言葉かけや対応でプライバシーを損ねることがないかについて確認を繰り返し、職員の意識向上を図っているが、トイレ使用時のプライバシー保持等にやや不安な面がある。	※	トイレの鍵は中からかけると外から開けられないため、かからないようにテープでふさいでいるが、自由にかけはしができるような物に変えることや、廊下から中の様子が見える状態のカーテンをアコーディオン型のドア等に変更することなどについて、職員間で検討を重ねることを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者自身が決めれるように、具体的でわかりやすい声掛けを心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 生活のリズムを守るために、一日の流れはあるが、利用者一人一人の状態や思いに配慮しながら、本人の希望に沿うよう支援している。 (外部評価) 基本的な一日の流れはあるが、起床や食事の時間などについてもその日の利用者の状態に合わせて過ごしてもらっている。お酒の好きな方には晩酌をしてもらうなど、嗜好品についても希望があればできるだけ対応できるように配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望により、理美容を利用している方もおられるが、出来ない方は施設内で身だしなみを整えられるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に合わせて買い物調理食事片付けを行っている。誕生日には本人に希望を聞き好きなものを食べてもらっている。月に1回は外食を行い好きなものを食べてもらっている。 (外部評価) テーブルの配席やイスについても好みに配慮している。利用者と職員が一緒になって、おしゃべりしながら食事の準備や片付けをしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 希望があればお酒等を飲んでもらっている。おやつ飲み物は好きなものを飲んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用しその人に合った時間や習慣を把握し、トイレ誘導をしている。夜間時はポータブルトイレや尿瓶を使用している利用者もいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) その人の体調を把握し、希望を確認し入浴してもらっている。 (外部評価) ほとんどの利用者が入浴を楽しみにしており、午後になると思い思いに入浴している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し生活リズムを整えるよう支援している。夜間は気持ちよく眠っていただけるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 自分の得意分野を発揮できるように支援している。(野菜作り、花植え、裁縫、料理、包丁研ぎ、囲碁、など) (外部評価) 太鼓、民謡、阿波踊り、手芸、裁縫、囲碁、野菜づくりなど、それぞれの利用者のやりたいことができるよう支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる利用者については、自分で所持してもらっている。	※	外食の際は本人の家族から預かっているお金の中から本人に支払ってもらうよう支援する。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人一人の希望に沿った外出はできにくい、ドライブ、散歩、買い物、外食などの外出の機会を多くもつようにしている。 (外部評価) 近所の神社に出かけたり、デイサービスや保育所へも出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と温泉に行ったり、食事に行ったり、お墓参りに行ったりしている。年に1回遠足も行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があればいつでも電話したり手紙を出せるように支援している。年賀状や暑中見舞いは家族あてに出している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 希望があればいつでも電話したり手紙を出せるように支援している。年賀状や暑中見舞いは家族あてに出している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会議カンファレンス等で毎月取り上げ、職員全員で話し合いを持ちながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関のかぎをかけないで、自由に生活できるように支援している。 (外部評価) 居室、玄関ともに自由に出入りできる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、利用者の所在を常に把握しており、夜間は一時ごとに巡視を行いいつでも動けるように対応している。	※	気付かないうちに利用者が外出してしまっても地域の方より連絡をもらったことがある。今後も地域との関わりを築きながら、鍵をかけないケアに取り組んでいきたい。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況変化によって、物品の保管管理を常に行っている。自室で縫物をされる利用者には、針の本数を数え渡している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒事故が起こらないように施設内の環境整備をしている。日々のヒヤリハットを記録し、職員の意識の共有を図っている。事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、今後の予防対策について話し合っている。家族へ状況を細かく報告している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に1回の救命救急の講習を受けている。事故発生時の対応マニュアルを作成し各棟に掲示している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に数回利用者とともに避難訓練を行っている。消防署の協力を得て通報訓練や避難訓練、消火器の使い方の指導を受けている。 (外部評価) 消防署の指導の下、利用者と共に火災を想定した避難訓練を実施して誘導経路や場所の確認を行っているが、地域の支援を得られる工夫についてはまだ取り組みが十分とは言えない。	※ ※	地域住民、消防団との連携が持てるよう取り組んでいきたい。 地域住民や消防団等と連携し、支援や協力が得られるシステムをつくり、昼夜を問わず、地震・水害等のような災害にも対応できるよう対策を立てておくことが望ましい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) リスク対応については、入所時や家族会で施設の方針を説明しているが、利用者の状態に応じてその都度説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝と入浴前のバイタルチェックを行い、健康状態を把握し、異変に気づいたときは医療受診を行っている。常に申し送りを行い情報を共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の処方箋を各棟に配布し、職員が薬の内容を把握している。服薬により状態の変化がある場合は、医療機関を受診し職員に申し送り等で伝えている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 主治医と相談し、薬を処方してもらったり、繊維質の多い食物や、乳製品、水分を取ってもらっている。散歩、体操をとりいれ、自然排便ができるように取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声掛けを行い、利用者に応じた介助を行っている。就寝前は義歯を外し、週1回消毒をしている。必要に応じて歯科受診をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量及び水分量を記録している。一人一人の病気に合わせた味付け、食事量を提供している。 (外部評価) 栄養バランス、カロリーには常に配慮している。食べる量や水分摂取量については、記録を取り、適切に管理できるようにしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し各棟に配布している。その都度職員会朝礼等で話し、意識統一を図っている。手洗いはペーパータオルを使用し、来訪者には手指の消毒してもらっている。手すり、イス、ドアノブなどの消毒を毎日実施している。インフルエンザの予防接種もしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具は毎日消毒乾燥し、毎日買い物に行き新鮮な食材を使用するようにしている。賞味期限は常に確認し購入している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には季節の花や、野菜を植えたり、ベンチを置き話ができるようにしている。近所の方が野菜の指導をしてくれる場合もある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先や共有部分には花を生けたり、壁に季節に応じた装飾をしたり、利用者の作品や写真を掲示している。各部屋に花や観葉植物を置き世話をしている方もある。 (外部評価) 元中学生の寮であった建物を改造して使っているため、思い通りのスペースを確保できにくい点はあるが、温かみのある佇まいを活かして安心して過ごせる工夫をしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下に椅子やベンチを置いて利用者同士で話ができるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具を持ってきてもらっている。本人の写真や作品(ちぎり絵、ぬり絵、習字)を掲示している。 (外部評価) 十分な広さがあり、自分の馴染みの物を持ち込んで個性を出しており、居心地の良い居室となっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 季節に応じて利用者の様子を見ながら温度調節や喚起を行っている。居室、トイレの臭いにおいては消臭剤を利用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 階段や廊下トイレ、浴室に手すりをつけたり段差をなくし安全確保と自立への配慮をしている。身体譲許に合わせて部屋のベットの位置替えをしている。各自に応じて老人車、歩行器、車いす、杖を使用して歩行してもらっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の状況に応じて混乱や失敗が生じないようにトイレ、居室、食堂の位置が確認できるように表示している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置いて利用者がいつでも日向ぼっこや夕涼みができるようにしている。時々歌ったりゲームをして楽しんでもらっている。車いすの方も外の景色が楽しめるように花や野菜を植えている。	※	テーブルを置いて楽しく話をしたり、お茶が飲めるような環境づくりをしたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中で利用者の言葉、表情から何をしたいか、一人一人の思いを聞きながら支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時間、食事の時間は、職員と一緒に話しながら、ゆっくり過ごしてもらっている。いつでもお茶を飲んでもらい利用者に関わる時間を作るようにしている。廊下、玄関先には、ベンチ・椅子を置き、座って話をしたり、散歩をしながら会話を楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の生活リズムに合わせ、食堂・居室を行き来した生活をされている。自室でテレビ、新聞を見られたり、昼寝をされたりゆったりした生活が出来る様にしている。自室に一人で行けない入居者はソファで、他の入居者、職員と関わりが持てるようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「とても助かります」「ありがとうございました」の感謝の気持ちを職員はいつも持ちながら支援している。入居の方も自分の仕事(役割)として、進んで手伝いをされている。その中でも馴染みの関係も出来ている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活の中での声かけにより職員が実施している。散歩、ドライブを楽しんだり、外食に行き好きな物を食べてもらうようにしている。出来る方はお墓掃除に連れて帰ったり、お墓参りをされている。入居者の話を聞きながら出掛けるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康管理、医療面においては、協力医院の看護師が週1回訪問して健康管理を行っている。24時間の緊急連絡体制もできており、必要時は往診できるようにしている。安全面においては、十分に注意を払い、安心して過ごしていただけるよう配慮している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者一人一人の思いに答えられるように、話を聞きながら対応するように努力している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に、利用者の日頃の様子を細かく話し会話を持つようにしている。家族の意向も聞きながら、安心した生活が送れるように取り組んでいる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域の行事に参加したり、隣の保育所との交流も行っている。少しずつではあるが、近隣の方が、入居者を訪ねて来られることもある。今後も遠慮なく訪ねて来て頂ける馴染みの関係を作っていきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、地域の方との関わりが少しずつ取れるようになってきている。避難訓練においても、消防団との連携が図れるように、次の推進会議において話し合いを持つようにしている。推進委員の方より、色々な意見を頂き改善に向けている。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士で常に話し合いながら、利用者に関わりを持つようにしている。理念も職員で見直しし、新たな気持ちで取組みを行っている。笑顔で優しく頑張っていきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	概ねの方は満足されているのではないかと考えている。職員に対する態度、言葉から思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族会、面会時に家族の意向を聞くようにしている。意見箱を設置して、感じた事、些細な事でも書いてもらえるようにしている。概ね家族の方は満足していると思われる。ここに入居したから生き生きとしてきたと話される家族もあり嬉しく思っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

元中学校の寮を改築した建物であり、空間的には狭いが、自然に恵まれており、近隣には保育所、お宮等があり散歩コースとなっています。庭には野菜、花を作り、お世話をすることが好きな入居者に手伝ってもらっています。畑仕事が出来ない方も、出来る事を少しでもしてもらえるように、毎日を過ごしてもらっています。5年目を迎え入居者の入れ替わりも少なく、職員の入れ替わりも比較的少ないと思われ、全体の馴染みの関係も出来ていると思います。地域との交流も少しずつ行っています。今後も、地域との連携を図りながら、いつでも立ち寄って頂けるホームになりたいと思っています。これからも利用者の方が笑顔で、穏やかに過ごして頂けるように、新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ゆうなぎ

(ユニット名) 北 棟

記入者(管理者)

氏 名 緒方 久美子

評価完了日 平成 20 年 6 月 12 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域の中で安心して暮らしていけるよう事業所独自の理念を作っている。		
			(外部評価) 開設4年を経て経営体制を新たにすることを期に、関係者全員で検討して新たに『笑顔で穏やかな暮らし』という理念をつくりあげているが、地域の中で利用者に笑顔で生活してもらうには？という観点が明確にされているとは言えない。	※	ホーム内の生活だけでなく、この地域で生活してきた利用者の生活をそのまま自然に継続していけるようなケアを目指し、目標として理念に盛り込むことを期待する
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝礼時に復唱し、ミーティング・職員会議等で話し合っている。	※	職員に時々アンケートをとり、理念の見直しを検討している。
			(外部評価) 利用者に筆で書いてもらった理念を、誰もが見やすいところに掲示している。毎朝、朝礼時には理念を唱和し、実践に活かしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居時には家族に理念を説明し、事業所が取り組んでいることを伝えている。玄関先、施設内各棟の入り口トイレ等の目につくところに掲示している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の方と挨拶をしたり、施設の周りは散歩コースや保育所への通園コースとなっており、あいさつに努めている。	※	今まで以上に地域の方にいつでも立ち寄っていただけるよう取り組んでいきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会に参加し、地域の行事(運動会、お祭り、お神楽、等)や保育所(お誕生会、運動会、お祭り、等)生き生きサロンとの交流を行っている。 (外部評価) 自治会に加入して情報交換を行い、祭りや運動会などの行事に参加している。ホーム祭りを開催して地域の方に来てもらうきっかけづくりにも努めている。隣接の保育所との交流も盛んであり、また近所の方が野菜などを持参して様子をうかがいに立ち寄ってくれることもある。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方に呼びかけ、グループホーム連絡会主催の認知症の講演会を開いた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全職員で行い、問題点を再確認し具体的な改善に取り組んでいる。外部評価の結果を各棟に掲示し改善に向けた取り組みを行っている。 (外部評価) 職員一人ひとりが自己評価に取り組むことで、少しずつ気づきがあることを意識している。また、評価結果に対して職員の提案を促しながら改善計画を立て、積極的に改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に一回推進会議を行い、施設の状況を説明し、話し合ったことを職員に伝えさーびすの向上に生かしている。 (外部評価) 行政、地域（区長、民生委員、保育園長など）、家族など様々な立場のメンバーの参加を得て意見交換できるよう工夫している。年間を通してスケジュールを立て、委員それぞれが提案した議題を担当し、発表するようにしている。自己及び外部評価についてもその都度話し合っている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月1回のグループホーム連絡会に市町村担当に参加してもらい各事業所等の報告を聞く機会を設けている。 (外部評価) 運営推進会議をきっかけに認知症講演会を開催し、《地域で安心して暮らせる・支えあうまちづくり、ネットワークづくりのために》というテーマを投げかけ、地域の福祉力向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、勉強したことを職員会議で報告し、資料等は各棟に配布して共有している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、朝夕の申し送り時職員会議、ミーティング等で話し合い、防止に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に利用契約書は読み合わせを行い、疑問な点や、緊急時の対応については、利用者・家族に分かるように十分説明して理解を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見・不満・苦情等については、苦情報告書を作り職員全員で検討し、出来る範囲においては日常の業務に反映している。	※	努力はしているが、今後も利用者の意見を聞きながら思いに答えていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月1回お便りを発行し、健康状態を伝えている。金銭管理においても出納帳へ確認印を取っている。職員の異動については年に4回の通信に掲載して伝えている。緊急時はその都度電話連絡をしている。 (外部評価) 家族の来訪時にはその都度生活ぶりを伝えている。月1回、健康状態や金銭報告について便りを付けて報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を年2回実施し意見・要望を聞いている。面会に来られた時には、気軽に話ができる様に、雰囲気作りをしている。出された意見や要望については職員で話し合い、生かしている。 (外部評価) 来訪時の声かけを積極的に行ったり、運営推進会議や家族会なども開いて意見を聞いているが、要望はほとんどないのが実情である。しかし、要望に応じていく仕組みは構築している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 利用者や家族と信頼関係を築くため極力移動は避けるようにしている。利用者への影響を考慮して、各棟の申し送りや交流を図り、馴染みの関係を作っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者はフリーになれる体制をとっており柔軟に動けるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者や家族と信頼関係を築くため極力移動は避けるようにしている。利用者への影響を考慮して、各棟の申し送りや交流を図り、馴染みの関係を作っている。 (外部評価) 利用者にとって馴染みの関係が大切なことを十分承知しており、運営者、事務職員、管理者が常時フリーの状態で職員をサポートしていく仕組みをつくるなど工夫をしており、職員の異動はほとんどない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の能力に応じた研修会等を選定し、受講してもらうようにしている。 (外部評価) 外部の研修会の情報は常に公開し、段階に応じて順次受講できる。月1回の職員会議やカンファレンス時を利用して内部研修会も開いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月1回町内のグループホーム連絡会を実施し、意見交換をしている。また、交流の運動会や講演会町の福祉大会への参加をし交流を図っている。 (外部評価) 地域包括支援センターを中心に町内の5か所のグループホームでネットワークを作り、情報交換や運動会などの行事を通してサービス向上に役立てている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 忘年会、食事会を実施し親睦をはかっている。休憩時間や場所を確保している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、現場に入り日頃の職員の業務の様子を確認している。職員が楽しく働けるよう助言指導を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には、自宅面談に行き身体状況、生活状況、病歴、職歴等を細かく調査している。本人の思いを職員全員に報告し、入所後不安なく生活していただけるよう努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には、自宅面談に行き身体状況、生活状況、病歴、職歴等を細かく調査している。家族の思いを職員全員に報告し、入所後不安なく生活していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の話を聞き必要としているサービスを受けられるように支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族が施設を見学してもらう機会を作っている。また、併設のデイサービスを利用してもらい馴染みの関係を作ってもらい入所する場合もある。 (外部評価) 今までの生活状況を大切に考えており、自宅を訪問したり家族から話を聞いている。ホームの雰囲気に慣れてもらえるよう、来訪してもらいお茶やおやつと一緒に過ごしてもらっている。デイサービスを利用しながら馴染んでもらったうえで入居する方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として敬い、常に学んでいくことを忘れないという施設の行動目標に沿って、日常生活を共に過ごしている。 (外部評価) 職員ができない家事や裁縫などを教えてもらったり、落ち込んでいる時に励ましや助言があると素直に聞けるなど、職員は利用者が親のように暖かく見守ってくれているのを感じている。	※	今後も利用者の思いを共感しながら、共に学び支え合えるよう努める。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に利用者の状況を細かく伝え、来所時には出来るだけ楽しく会話ができるようにしている。食事と共にしてもらったり、散歩をしてもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事の参加を呼びかけ利用者と一緒に過ごしてもらい、いつでも外出・外泊できるように努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所者によってはなじみの友達・知人の来訪者も多くあり、居室で過ごされる場合もある。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の性格や特徴を把握し、楽しく過ごせるような場面作りを行っている。職員もお茶や食事の時間を一緒に過ごし、話をしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 事例はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で一人ひとりの表情や態度からの本人の思いを知ろうと常に配慮している。 (外部評価) 職員は、常に利用者の立場になって気持ちに寄り添えるよう努めており、その時その時の気持ちをゆっくり聞き、納得できるまで見守っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前には自宅面談に行き、身体状況、生活状況、病歴、職歴等を細かく調査している。一度に聞けない場合もあるが、面会に来られた時にも状況を聞いている。	※	センター方式を利用した取組みを行うよう検討している。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の観察記録を取り日々の生活リズムの把握をし、楽しく安心した生活が送れるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 職員全員でカンファレンスを行い、一人一人に合った介護計画を作成している。家族にも、更新時、来所時に意見や思いを聞いて取り入れている。 (外部評価) 職員は担当の利用者について日々の様子から介護計画に対する評価を行って見直し原案をつくり、カンファレンスで全員の気づきを出し合って具体的な案をつくり、ケアマネジャーが家族の意見を取り入れて介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3か月毎に職員全員でカンファレンスを行い、一人一人に合った介護計画を作成している。家族にも、更新時、来所時に意見や思いを聞いて取り入れている。状態(入退院時)に応じては検討見直しを行っている。 (外部評価) 基本的には3か月ごとに見直ししているが、カンファレンスごとに変化があるか確認して、必要であれば随時見直ししている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一人一人の日々の介護計画を細かく作成し、職員間の情報共有を実施している。それをもとに、介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人、家族の要望に応じて、通院、リハビリ、外出を行い、支援している。 (外部評価) 自由にデイサービスに参加している。リハビリテーションや通院の支援、買い物や外出も利用者の要望に添えるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地区や民生員の方に参加いただき、運営推進会議を行い、話を聞いてもらっている。警察・消防署と連携をして防災訓練等を行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) なし		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在は未実施	※	運営推進会議に参加することとなり、情報交換、協力を図っていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望を聞きながら、随時対応している。 (外部評価) かかりつけ医の受診については職員が同行し、記録を持参して日々の様子を伝えている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 利用者の症状に応じて、主治医以外の脳神経外科の受診をし、相談治療を受けるようにしている。	※	近くに認知症専門医がおられない。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医院の看護師に週1回来てもらい、利用者の健康管理や、状態変化に応じた支援を行うことにしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には本人の情報を医療機関に提供し、頻繁に見舞い、家族と情報交換を行い、早期退院支援に結び付けている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人・家族・医師と十分相談し、重度化や終末期に向けた方針の同意書をもっている。全職員に説明し共有している。 (外部評価) 重度化や終末期については看取りの指針を作成しており、本人・家族の同意を得て方針を共有しているが、現在は事例がなく具体的な取り組みはない。	※ ※	状態変化に応じて、本人・家族の気持ちを聞きながら支援につなげていきたい。 指針を共有しながら、家族の役割、医師・看護師の役割、職員の役割や勤務体制等について繰り返し話し合いを重ねておくことが求められる。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今のところ終末期をホームで迎えた利用者はいないが、本人の気持ちをご家族を交えて聞いている。利用者が安心して終末期を過ごせるように、医療機関と密に連携を図っていく必要がある。	※	終末期の支援について、細かく職員同士で話し合いを行う必要がある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の施設・病院に移動の際には情報を提供するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員会議やカンファレンスにおいて、利用者のほこりやプライバシーを傷つけないような言葉かけや対応について再確認し、職員の意識向上に努めている。		
			(外部評価) 記録の保管や、生活の中での言葉かけや対応でプライバシーを損ねることがないかについて確認を繰り返し、職員の意識向上を図っているが、トイレ使用時のプライバシー保持等にやや不安な面がある。	※	トイレの鍵は中からかけると外から開けられないため、かからないようにテープでふさいでいるが、自由にかけはしができるような物に変えることや、廊下から中の様子が見える状態のカーテンをアコーディオン型のドア等に変更することなどについて、職員間で検討を重ねることを期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者自身が決めれるように、具体的でわかりやすい声掛けを心がけている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 生活のリズムを守るために、一日の流れはあるが、利用者一人一人の状態や思いに配慮しながら、本人の希望に沿うよう支援している。 (外部評価) 基本的な一日の流れはあるが、起床や食事の時間などについてもその日の利用者の状態に合わせて過ごしてもらっている。お酒の好きな方には晩酌をしてもらうなど、嗜好品についても希望があればできるだけ対応できるように配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望により、理美容を利用している方もおられるが、出来ない方は施設内で身だしなみを整えられるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に合わせて買い物調理食事片付けを行っている。誕生日には本人に希望を聞き好きなものを食べてもらっている。月に1回は外食を行い好きなものを食べてもらっている。 (外部評価) テーブルの配席やイスについても好みに配慮している。利用者と職員が一緒になって、おしゃべりしながら食事の準備や片付けをしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 希望があればお酒等を飲んでもらっている。おやつの飲み物は好きなものを飲んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用しその人に合った時間や習慣を把握し、トイレ誘導をしている。夜間時はポータブルトイレや尿瓶を使用している利用者もいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) その人の体調を把握し、希望を確認し入浴してもらっている。 (外部評価) ほとんどの利用者が入浴を楽しみにしており、午後になると思い思いに入浴している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し生活リズムを整えるよう支援している。夜間は気持ちよく眠っていただけるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 自分の得意分野を発揮できるように支援している。(野菜作り、花植え、裁縫、料理、包丁研ぎ、囲碁、など) (外部評価) 太鼓、民謡、阿波踊り、手芸、裁縫、囲碁、野菜づくりなど、それぞれの利用者のやりたいことができるよう支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる利用者については、自分で所持してもらっている。	※	外食の際は本人の家族から預かっているお金の中から本人に支払ってもらうよう支援する。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人一人の希望に沿った外出はできにくい、ドライブ、散歩、買い物、外食などの外出の機会を多くもつようにしている。 (外部評価) 近所の神社に出かけたり、デイサービスや保育所へも出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と温泉に行ったり、食事に行ったり、お墓参りに行ったりしている。年に1回遠足も行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があればいつでも電話したり手紙を出せるように支援している。年賀状や暑中見舞いは家族あてに出している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 希望があればいつでも電話したり手紙を出せるように支援している。年賀状や暑中見舞いは家族あてに出している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会議カンファレンス等で毎月取り上げ、職員全員で話し合いを持ちながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関のかぎをかけないで、自由に生活できるように支援している。 (外部評価) 居室、玄関ともに自由に出入りできる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、利用者の所在を常に把握しており、夜間は一時間ごとに巡視を行いつつも動けるように対応している。	※	気付かないうちに利用者が外出してしまっても地域の方より連絡をもらったことがある。今後も地域との関わりを築きながら、鍵をかけないケアに取り組んでいきたい。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況変化によって、物品の保管管理を常に行っている。自室で縫物をされる利用者には、針の本数を数え渡している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒事故が起こらないように施設内の環境整備をしている。日々のヒヤリハットを記録し、職員の意識の共有を図っている。事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、今後の予防対策について話し合っている。家族へ状況を細かく報告している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に1回の救命救急の講習を受けている。事故発生時の対応マニュアルを作成し各棟に掲示している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に数回利用者とともに避難訓練を行っている。消防署の協力を得て通報訓練や避難訓練、消火器の使い方の指導を受けている。 (外部評価) 消防署の指導の下、利用者と共に火災を想定した避難訓練を実施して誘導経路や場所の確認を行っているが、地域の支援を得られる工夫についてはまだ取り組みが十分とは言えない。	※ ※	地域住民、消防団との連携が持てるよう取り組んでいきたい。 地域住民や消防団等と連携し、支援や協力が得られるシステムをつくり、昼夜を問わず、地震・水害等のような災害にも対応できるよう対策を立てておくことが望ましい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) リスク対応については、入所時や家族会で施設の方針を説明しているが、利用者の状態に応じてその都度説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝と入浴前のバイタルチェックを行い、健康状態を把握し、異変に気づいたときは医療受診を行っている。常に申し送りを行い情報を共有している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各自の処方箋を各棟に配布し、職員が薬の内容を把握している。服薬により状態の変化がある場合は、医療機関を受診し職員に申し送り等で伝えている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 主治医と相談し、薬を処方してもらったり、繊維質の多い食物や、乳製品、水分を取ってもらっている。散歩、体操をとりいれ、自然排便ができるように取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声掛けを行い、利用者に応じた介助を行っている。就寝前は義歯を外し、週1回消毒をしている。必要に応じて歯科受診をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量及び水分量を記録している。一人一人の病気に合わせた味付け、食事量を提供している。 (外部評価) 栄養バランス、カロリーには常に配慮している。食べる量や水分摂取量については、記録を取り、適切に管理できるようにしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し各棟に配布している。その都度職員会朝礼等で話し、意識統一を図っている。手洗いはペーパータオルを使用し、来訪者には手指の消毒をしてもらっている。手すり、イス、ドアノブなどの消毒を毎日実施している。インフルエンザの予防接種もしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理器具は毎日消毒乾燥し、毎日買い物に行き新鮮な食材を使用するようにしている。賞味期限は常に確認し購入している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には季節の花や、野菜を植えたり、ベンチを置き話ができるようにしている。近所の方が野菜の指導をしてくれる場合もある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先や共有部分には花を生けたり、壁に季節に応じた装飾をしたり、利用者の作品や写真を掲示している。各部屋に花や観葉植物を置き世話をしている方もいる。 (外部評価) 元中学生の寮であった建物を改造して使っているため、思い通りのスペースを確保できにくい点はあるが、温かみのある佇まいを活かして安心して過ごせる工夫をしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下に椅子やベンチを置いて利用者同士で話ができるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具を持ってきてもらっている。本人の写真や作品(ちぎり絵、ぬり絵、習字)を掲示している。 (外部評価) 十分な広さがあり、自分の馴染みの物を持ち込んで個性を出しており、居心地の良い居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 季節に応じて利用者の様子を見ながら温度調節や喚起を行っている。居室、トイレの臭いにおいては消臭剤を利用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 階段や廊下トイレ、浴室に手すりをつけたり段差をなくし安全確保と自立への配慮をしている。身体譲許に合わせて部屋のベットの位置替えをしている。各自に応じて老人車、歩行器、車いす、杖を使用して歩行してもらっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の状況に応じて混乱や失敗が生じないようにトイレ、居室、食堂の位置が確認できるように表示している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関先にベンチを置いて利用者がいつでも日向ぼっこや夕涼みができるようにしている。時々歌ったりゲームをして楽しんでもらっている。車いすの方も外の景色が楽しめるように花や野菜を植えている。	※	テーブルを置いて楽しく話をしたり、お茶が飲めるような環境づくりをしたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中で利用者の言葉、表情から何をしたいか、一人一人の思いを聞きながら支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時間、食事の時間は、職員と一緒に話しながら、ゆっくり過ごしてもらっている。いつでもお茶を飲んでもらい利用者に関わる時間を作るようにしている。廊下、玄関先には、ベンチ・椅子を置き、座って話をしたり、散歩をしながら会話を楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の生活リズムに合わせ、食堂・居室を行き来した生活をされている。自室でテレビ、新聞を見られたり、昼寝をされたりゆったりした生活が出来る様にしている。自室に一人で行けない入居者はソファで、他の入居者、職員と関わりが持てるようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「とても助かります」「ありがとうございました」の感謝の気持ちを職員はいつも持ちながら支援している。入居の方も自分の仕事(役割)として、進んで手伝いをされている。その中でも馴染みの関係も出来ている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活の中での声かけにより職員が実施している。散歩、ドライブを楽しんだり、外食に行き好きな物を食べてもらうようにしている。出来る方はお墓掃除に連れて帰ったり、お墓参りをされている。入居者の話を聞きながら出掛けるようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	健康管理、医療面においては、協力医院の看護師が週1回訪問して健康管理を行っている。24時間の緊急連絡体制もできており、必要時は往診できるようにしている。安全面においては、十分に注意を払い、安心して過ごしていただけるよう配慮している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者一人一人の思いに答えられるように、話を聞きながら対応するように努力している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に、利用者の日頃の様子を細かく話し会話を持つようにしている。家族の意向も聞きながら、安心した生活が送れるように取り組んでいる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	地域の行事に参加したり、隣の保育所との交流も行っている。少しずつではあるが、近隣の方が、入居者を訪ねて来られることもある。今後も遠慮なく訪ねて来て頂ける馴染みの関係を作っていきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、地域の方との関わりが少しずつ取れるようになってきている。避難訓練においても、消防団との連携が図れるように、次の推進会議において話し合いを持つようにしている。推進委員の方より、色々な意見を頂き改善に向けている。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士で常に話し合いながら、利用者に関わりを持つようにしている。理念も職員で見直しし、新たな気持ちで取組みを行っている。笑顔で優しく頑張っていきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	概ねの方は満足されているのではないかと考えている。職員に対する態度、言葉から思われる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族会、面会時に家族の意向を聞くようにしている。意見箱を設置して、感じた事、些細な事でも書いてもらえるようにしている。概ね家族の方は満足していると思われる。ここに入居したから生き生きとしてきたと話される家族もあり嬉しく思っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

元中学校の寮を改築した建物であり、空間的には狭いが、自然に恵まれており、近隣には保育所、お宮等があり散歩コースとなっています。庭には野菜、花を作り、お世話をすることが好きな入居者に手伝ってもらっています。畑仕事が出来ない方も、出来る事を少しでもしてもらえるように、毎日を過ごしてもらっています。5年目を迎え入居者の入れ替わりも少なく、職員の入れ替わりも比較的少ないと思われ、全体の馴染みの関係も出来ていると思います。地域との交流も少しずつ行っています。今後も、地域との連携を図りながら、いつでも立ち寄って頂けるホームになりたいと思っています。これからも利用者の方が笑顔で、穏やかに過ごして頂けるように、新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。